



岐阜大学国際交流

NEWS Letter

For International Exchange
Gifu University

October 2024

57



GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催

7月18日

グローバル推進機構では、大学生・高校生の積極的な国際化プログラムへの参加を促すことを目的とし、2024年7月18日（木）に講堂にてシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催しました。本シンポジウムは2部のセッションで構成され、各セッションでは世界で活躍するメインスピーカーを招き、ポッドキャストプロデューサー 竹村由紀子氏による進行のもと、登壇者の吉田和弘学長、脳科学者で本学客員教授の茂木健一郎氏との鼎談形式で行われました。

セッション1は、インドを拠点として企業のインド進出支援等を行うインフォブリッジ・ホールディングス・グループ代表取締役の繁田奈歩氏を迎え、「平均年齢28歳!若者大国インド」をテーマに行いました。繁田氏がインドで事業を開始した経緯や発展著しいインド社会・インドの若者の現状などについて登壇者とのやりとりの中で語られました。

セッション2は、ニューヨークを拠点に世界を代表するブランドのデジタル戦略等を手がけるクリエイティブディレクターのレイ イナモト氏をメインスピーカーに迎え、「海外で輝くためのマインドセット」をテーマに行いました。岐阜県大野郡清見村（現：高山市）出身のイナモト氏が高校進学をきっかけに海外へ飛び出した後、米国での大学進学・就職を経て現在に至るまでの経験について語られました。

当日は、会場では264名が、Glocal Lesson^(注)でのリアルタイム配信では188名が参加し、登壇者達の熱い思いに耳を傾けました。Glocal Lessonでは、この鼎談の様様をオンデマンド配信しています。

(注) グローカル推進機構が提供するオンライン学習プラットフォーム (<https://www.gu-glocal.com/>)



ラバト国際大学学長等が本学を訪問し大学間学術交流協定を締結

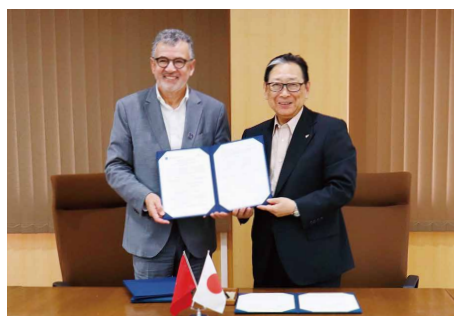
7月6日～9日



2024年7月6日（土）～ 7月9日（火）に、モロッコのラバト国際大学（UIR）から、ヌレディン・ムアディブ学長、アブデラジズ・ベンジュアド副学長（研究・イノベーション・パートナーシップ）、アブデラティフ・ベンシェリファ所長（公共政策センター及び学長シニアアドバイザー）、モハシン・ボウヤ総括所長（イノベーション・起業家育成センター）、ジャマル・ブコウレイ部長（国際関係・パートナーシップ）、ナディア・ユスフィ・シュタイナー教授及びアオマル・ブーム教授（UIR大学フェロー、University of California, Los Angeles (UCLA) 人類学教授）が本学を訪問及び高山市内の地域ラボ高山等を視察しました。

本学は、2023年5月にラシャッド・ブフラル 駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問された際に、同大学との交流の提案があったことから、同年12月にUIRを訪問し、学術交流の可能性について協議しました。その後、同大学とエネルギー工学分野の共同研究を中心に交流を進めていくこととなり今回、大学間学術交流協定締結の署名式を執り行いました。

今回の訪問及び大学間学術交流協定の締結を機に、本学はUIRとの連携をより一層深め、今後の研究交流を促進するなどさらなる国際化に向けた取り組みを推進していきます。





インド工科大学グワハティ校で ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を共同開催

3月3日～5日



2024年3月3日(日)～3月5日(火)、本学はインド工科大学グワハティ校(以下、「IITG」という。)とジョイント・ディグリーシンポジウム2024を共同開催いたしました。

シンポジウムに先立ち、吉田 和弘 岐阜大学学長、岡田 亜弥 教授(名古屋大学大学院 国際開発研究科長)をはじめとする本学からの出席者12名がIITG学長室を訪れ、Rajeev Ahuja IITG学長代行及びIITGの学科・センター長に対し表敬訪問を行いました。

シンポジウム開会式では、両大学で開設している3つのジョイント・ディグリープログラム(JDP)^(注)に関する協定書更新、国際連携修了証発行型教育Glocal Expert Programに関する協定書締結に対する大学学長による署名式及びIITGでの短期滞在プログラム(第3回スプリングスクール)の開校式が執り行われました。シンポジウム2日目の学術および産業に関するセッションでは、JDP学生を含む29名のポスター発表が行われ、シンポジウム参加者と研究討論を行いました。シンポジウムには、スプリングスクールに参加する本学学生10名も参加し、両大学で展開している分野の最新情報や両国の産業分野の最新動向に触れる機会となりました。今後も、グローバルJDPプラットフォームを基軸としたシンポジウムを岐阜とグワハティで継続的に開催し、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した取り組みを通して、高度人材育成および地域・国際社会の発展に貢献できるよう努めていきます。

(注) ジョイント・ディグリープログラム(JDP)

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。



海外で学ぶ

サマースクール(派遣)参加に向けた事前研修

6月～7月

本学では毎年、学生の夏季休業期間中にサマースクール(派遣)として、本学の大学間学術交流協定校であるグリフィス大学(オーストラリア)やアルバータ大学(カナダ)等で実施される語学研修(ESL: English as a Second Language)に学生を派遣しています。その参加者に向けた事前研修を6月から7月にかけて計4回実施しました。

本研修は、グローバル推進機構グレッグ・リチャード・トレバ特任助教が講師となり、現地で役立つ知識や授業・生活で求められるコミュニケーション能力を養うことを目的に実施されました。今年度は、学部・学年を問わず、グリフィス大学ESLプログラムは29名、アルバータ大学ESLプログラムは22名の学生が参加しました。また、本プログラムは、名古屋大学とも共同で参加者を募集しており、両プログラムに名古屋大学の学生が含まれています。

初回の研修では、緊張した面持ちの学生が多い印象でしたが、回数を重ねるごとに少しずつ打ち解けていきました。様々な場面を想定したコミュニケーションの練習を通して、同じ目的で集まる学生同士の一体感が生まれました。結果的に学生たちは、留学当初、ホームステイでの慣れない生活や海外式のアクティブな授業スタイルに戸惑ったようですが、本研修で学んだことを生かし、乗り越えることができました。



フエ大学(ベトナム)学生と観光プランを作成し、現地で検証

3月5日～14日

全学共通教育科目「グローバルリーダー実践」及び社会システム経営学環専門科目「観光デザイン実習」において、フエ大学観光学部の学生らと共にフエ滞り型の観光プラン案の作成を行い、現地でプランの検証を行いました。

本科目において、本学の受講生はフエ大学 観光学部の学生と数か月間に渡りオンラインで交流し、協力して日本の若者に向けたフエ滞在型の3日間の観光プラン案を作成しました。本科目の締めくくりとして、3月5日(火)～3月14日(木)の10日間、受講生10名がフエ市に滞在し、作成したプランにそって観光し、プランの検証を行いました。また、滞在中にフエ省 人民委員会・観光局を訪問し、フエ省の観光資源や現在の観光客の動向等を詳しく紹介いただきました。最終日にはブラッシュアップした観光プランを提案しました。

本学は地域の国際的な多様性に伴う諸課題を解決できる人材を育成すると共に、この取組が本学及びフエ大学の学生交流の更なる促進と、岐阜県・フエ省の一層の交流活性化に発展していくことを期待しています。



海外で学ぶ



工学部社会基盤工学科
手崎 滉介

アルバータ大学



カナダ

たくさんの人たちとの交流の中で気づいたこと

私は、カナダのアルバータ大学に1ヶ月間短期留学しました。限られた期間でしたが、英語能力を向上させるために、積極的に話しかけるようにしました。しかし、語彙力が足りず、さらなる努力が必要だと痛感しました。帰国後も、英語の勉強を継続しており、さらなるステップアップを目指していきます。

今回の留学では、他大学の学生と交流する機会に恵まれました。彼らの英語能力は高く、志を持って懸命に学業に取り組む姿に大きな刺激を受けました。また、ホストファミリーは僕を温かく受け入れてくださり、日常での何気ない会話や食事は、私にとって貴重な経験となりました。



本学への留学

JDP国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の日印学生が本学での勉学を開始

4月5日

2024年4月5日(金)、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校(以下、「IITG」という。)国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の新年度ガイダンスが行われ、岐阜大学を主大学とする学生3名とIITGを主大学とする学生5名が本学での勉学を開始しました。

国際連携専攻の学生は本学と海外相手大学の両方に在籍し、標準修業年限(修士2年)の中で一定期間を相手大学で修学します。留学を伴う国際的な教育環境の中で講義履修と研究活動を行い、在籍期間を延長することなく両大学による国際共同学位を取得することができます。

岐阜大学を主大学とする学生3名は本年7月中旬まで岐阜大学での講義履修と研究活動を行ったのち、7月下旬からはIITGでの留学(5か月)を開始します。一方、IITGを主大学とする学生5名は8月下旬までの5か月間、岐阜大学で講義履修や岐阜大学教員の下での研究活動、日本企業でのインターンシップを行います。7月中旬までの期間は、日印学生は共に顔を合わせて学び合い、国際共同学位取得という共通目標に向かって切磋琢磨します。

日印学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構 2024年度海外留学支援制度からの支援を受ける予定です。



サマースクール

6月19日～7月17日

2024年6月19日(水)～7月17日(水)の日程で、サマースクールを開催し、本学の学術交流協定大学であるノーザンケンタッキー大学(アメリカ)、ソウル科学技術大学校(韓国)、広西大学(中国)から計9名の学生を受け入れました。参加学生らは、同プログラムにおいて、日本語学習の他に日本文化体験として、美濃市(美濃和紙の里での紙すき体験)、関市(刃物ミュージアムでの日本刀鍛冶見学体験等)、郡上市(小学生との交流、剣道、茶道、書道、ホームステイ等の体験)を訪問、一般の学生も参加する能楽(能・狂言)ワークショップや七夕イベントにも参加しました。今回から、参加学生らが宿泊するシェアルーム(学生宿舍 U・TOPIA LAND別館)^(注)に学生チューターを常時2名相談役として置き、同宿舎における生活全般をサポートしました。さらに、例年行っている学生交流活動については、参加学生一人一人に、学生サポーターを付け、同活動の課題の遂行に必要なサポートを行いました。

(注) U・TOPIA LAND(ユー・トピアランド)別館

本学に通学する外国人留学生及び日本人学生に必要な住居を安定して提供し、また、安心して優良な住居を選定できることを目的に岐阜大学指定寮として認定された寮です。



日本語・日本文化教育センター(日文センター)主催

郡上踊りワークショップ

5月29日

2024年5月29日(水)、日文センター和室において、ユネスコ無形文化遺産であり国重要無形民俗文化財に指定されている「郡上踊り」のワークショップを開催しました。当日は、アメリカ、インド、韓国、タイ、中国、フランス、ベトナム、ポーランドからの約30人の留学生が参加し、日本の伝統文化を体験しました。

ワークショップでは、郡上市から3名の講師をお招きし、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を教わりました。留学生たちは、手の動きや足の動きを丁寧に学び、真剣に取り組みました。ワークショップ最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生6名が選ばれ、郡上ゆかりの記念品が手渡されました。このワークショップは、留学生にとって日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。



能楽ワークショップ

7月10日

2024年7月10日(水)に「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催しました。6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む35名の参加者が集い、日本の伝統文化を堪能しました。

ワークショップでは、講師として観世流シテ方の味方團先生および田茂井廣道先生(以上能の講師)、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生および山口耕道先生(以上狂言の講師)の計4名をお迎えしました。学生たちにとって、実際に謡や所作を体験したり、本物の面や楽器や能装束を間近に見たりする貴重な機会となりました。事後アンケートでの満足度も高く、「もっと実演を多く見たいと思うようになった」など興味の高まりを示すコメントがありました。



岐阜大学で学ぶ



応用生物科学部
アスラン ジャンヌ



フランス

岐阜で、遠く離れた我が家を感じる

私は勉強のため、そして日本の文化が好きで、単身来日しました。岐阜は、自分が没頭するのに最適な場所だと思います。研究環境の質の高さもさることながら、岐阜大学の温かく協力的な皆さんのおかげで、来日当初からアットホームな雰囲気で過ごすことができました。学生に提供される幅広い活動を通じて、友達を作ることができ、また退屈している暇はありませんでした。できるだけ長く滞在したいと思っています。

このような機会を与えてくださった私の指導教員である二宮茂准教授には、心から感謝しています。



ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア 特命全権大使が本学を訪問

6月3日



2024年6月3日(月)、ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員が、本学を訪問しました。

ティムラズ・レジャバ大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員は、吉田 和弘 学長、リム・リーフ副学長、小山 博之グローバル推進機構長、教育推進・学生支援機構 神酒 太郎 准教授と意見交換の後、全学共通教育科目「プレゼンテーション」において、特別講師として講義を行いました。

本学学長らとの意見交換においては、本学の概要や研究拠点、国際活動に関する紹介を行い、日本とジョージアのこれまでの関係や大使ご自身の経歴等にも触れながら、本学との今後の交流の可能性について話し合われました。

今回の訪問を機に、今後、同国の大学との交流が開始されることが期待されます。



吉田学長がサマルカンド国立医科大学 (ウズベキスタン)を訪問

7月19日～21日



2024年7月19日(金)～21日(日)に、吉田 和弘 学長、山田 陽一 教授・歯科口腔外科 科長がウズベキスタンを訪問しました。訪問中、アリーポフ ウズベキスタン共和国首相をはじめ、高等教育担当大臣や環境担当大臣、サマルカンド州知事と会談し、日本の高等教育から専門知識を学びたいという強いウズベキスタン政府の期待が示されました。

サマルカンド国立医科大学では、吉田 肇 岐阜県知事立ち会いのもと、吉田 学長とリザエフ 学長が意向確認書に署名し、両大学の協力関係を発展させることを約束しました。

この訪問を契機に、同大学との学生・研究者交流が促進されることが期待されます。



リトアニア共和国との交流



駐日リトアニア共和国 特命全権大使から 感謝状を贈呈

3月6日

2024年3月6日(水)、東京で開催された「リトアニア共和国 再建106周年並びに独立回復34周年記念を祝うレセプション」に、岐阜大学から吉田 和弘 学長、毛利 哲也 工学部教授、尾関 智恵 高等研究院 准教授が参加しました。

リトアニアと日本との関係促進に尽力された方々に、岐阜県からは村瀬 幸雄 在岐阜リトアニア共和国 名誉領事と毛利 教授へ感謝状が贈呈されました。

毛利 教授は、リトアニアについての理解を深めるために、2019年より学内外問わず参加可能な「リトアニア勉強会」を主催、2021年より全学共通科目「異文化論(リトアニア学)」を開講しています。

この貴重な機会に、日本とリトアニアの友好関係を深める一助となったことを、心よりお祝い申し上げます。



杉原千畝記念館を見学

7月3日

2024年7月3日(水)に、学生及び教職員を対象とした「杉原千畝記念館見学ツアー」を開催しました。本ツアーは「八百津町を訪問し、人道的な国際人である杉原千畝氏について学ぶ」ことを目的に行われ、当日は学生13名、教職員4名の計17名が参加しました。岐阜県加茂郡八百津町に位置する同記念館では、八百津町出身の外交官であり、第二次世界大戦下に赴任地のリトアニアにてユダヤ人に対する「命のビザ」を発給したことで知られる杉原千畝氏に関する資料が数多く展示されています。

参加者は館内を巡り、来館者へ問いかける多くの展示を見学し、見学での気づきや感想を共有しました。



インド工科大学グワハティ校との交流が日本政府の海外向け広報動画に採用

7月18日

日本政府の海外向け広報動画“Multi-layered Connectivity to Northeast India”において、本学とインド工科大学グワハティ校との交流が大きく取り上げられました。本学は日本で唯一、インドの大学とジョイント・ディグリープログラムを実施していることや、2022年度からは大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択され、同国と交流の拡大・発展に取り組んでいることなどから、今回の動画への協力依頼がありました。

<<https://www.youtube.com/watch?v=YbdWzc3E6-E>>



JDP修了 先輩からのメッセージ

学生時代にはジョイント・ディグリープログラム(JDP) 修士課程にてインド工科大学グワハティ校に留学しました。現在はその経験を活かし、食品素材企業にてインド子会社の生産管理業務に携わっています。日々の業務ではインドの子会社とメールやWeb会議を通して製造管理を行っています。

昨年には実際に1ヶ月間インド子会社へ出張し、現地スタッフと共に作業改善に取り組みました。業務を進める上で留学にて培った異文化理解力や適応力が非常に役立っていると感じます。



太陽化学株式会社 青柳 建志

自然科学技術研究科
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携
食品科学技術専攻 2021年修了

